



日本宣教ニュース

NO.2 2014年10月

東京基督教大学
国際宣教センター
日本宣教リサーチ
発行人 山口 陽一

「この福音は、あなたがたが神の恵みを聞き、それをほんとうに理解したとき以来、あなたがたの間でも見られるとおりの勢いをもって、世界中で、実を結び広がり続けています。福音はそのようにしてあなたがたに届いたのです。」（コロサイ1：6）

【巻頭言】

「グローバル化し複雑化する日本とその宣教」

国際宣教センター長 倉沢正則

「日本宣教リサーチ」が、2014年度東京基督教大学国際宣教センター内に発足しました。本会が日本をはじめ世界の諸教会の日本宣教への祈りと実践に少なからず貢献できればと願っています。本学国際宣教センターの設立目的は、「教会がその文化に深く根を下ろし、福音が人々に明確にされ、文化の向上が計られるために、理論と実践を統合して、教会の世界における『包括的使命』を促進する業務を行なう」というものです。そして、その事業の一つに、「日本と世界の宣教や文化向上に携わる宣教従事者、地域開発者、神学者、宣教学者、社会学者、文化人類学者等の活動や事例研究の各種資料・情報の交換、収集」とあり、この「日本宣教リサーチ」もその一環として活動できることを嬉しく思っています。動き始めたこの事業が、日本宣教の実情をよりの確に把握し、今後の宣教に有益な示唆を発信できるよう、山口陽一日本宣教リサーチ代表のもと、柴田初男、花薮征夫両専門委員の経験を生かした取り組みに期待しているところです。

グローバル化し複雑化する日本社会とそこに住み行き交う人々の多様性には目を見張るものがあります。「日本宣教」を考えると、そこにはさまざまな局面が見えてきます。地域的には、「都市化と過疎化」があり、世代的には「少子化と高齢化」が進み、社会的には「多文化共生」が求められ、環境的には「気候変動と原発放射能汚染」の課題があります。宗教的には「復古主義と多元主義」の緊張があり、経済的には「企業の社会的責任と海外事業展開」があり、国際関係的には「国際主義と地域主義」の折り合いが叫ばれています。加えて、3.11 東日本大震災がもたらした多くの課題と人々の必要への寄り添いは、今後も「日本」を考える上で絶えず意識すべきものです。これらの取り組みの中で、福音を「ことばとわざ」によって提示している教会・キリスト教団体や宣教従事者・研究機関の事例や研究調査を収集しつつ、これを紹介し、発展させ、さらなる取り組みへの示唆や提案を「日本宣教リサーチ」が担うことができれば幸甚に存じます。



【JMRレポート】

1974年に行われたローザンヌ世界宣教会議において、「『伝道』と『社会的責任』とは不可分の関係にあり、『宣教』に内包されるもので、共にわれわれクリスチャンの義務である」とされました。この「伝道」と「社会的責任」に関わる2つのフォーラムが、時を前後して行われましたので、その概要をレポートとして掲載いたします。（記 柴田初男）

◆「教会と地域福祉」フォーラム21 第2回シンポジウム ◆

1. 日 時：2014年9月27日（金）10:30～16:00
2. 場 所：日本基督教団富士見町教会
3. テーマ：「変容する家族と教会の役割～弱さと痛みに寄り添うために」
4. 内 容：

「教会と地域福祉」フォーラム21（主催 キリスト新聞社、共催 東京基督教大学共立基督教研究所、後援 いのちのことば社出版部）は、今年2月に「キリスト新聞社は、長期的な視野で『キリスト教福祉』を中心とする研鑽と実践のためのネットワーク『教会と地域福祉』フォーラム21を創設します」との宣言のもと、「地域福祉」から教会の“復興”を目指すものとして始められた。3月に行われた第1回シンポジウムでは、「キリスト教福祉の復興に向けて～現場の実践と提言に聞く」をテーマに、実際に福祉施設や福祉事業団、NPO法人等で実践されてきた方たちからの問題提起や提言等が話し合われた。

今回、第2回シンポジウムにおいては、「変容する家族と教会の役割～弱さと痛みに寄り添うために」をテーマとして開催された。

開会挨拶のレジメで稲垣久和氏（東京基督教大学大学院教授）は、「50年後には高齢者人口は総人口の4割を超え、労働人口が減っていく。だから女性もみな労働の場に出て行く時代になり、いわゆる専業主婦はいなくなる。ここに出てくる問題は高齢者介護と同時に子育てをどうするかということでしょう。今後の日本の福祉の大きなテーマになります。日本の福祉制度はこれに対応できていません。（中略）戦後の家族の形が経済の急成長の時代と重なったために、それがはじけた後に、家族や子供の問題が噴出してきました。いまや子供6人のうち1人が貧困であると言われています。では、このような時代の状況に『教会』はどう関われるのか？ 一体何ができるのか、これが本日のテーマです。」と開催の趣旨を述べている。そして、「日本のキリスト教会は最初から自由教会でしたから、良くも悪くも、いわば個人の会員制クラブのようなところがあり、家族をテーマにして宣教や神学を構築してきませんでした。ですから今日のような多様化した家族と、そこから派生する問題に対処できるフレームワークを神学的になんら持っていない。まずは現実を知ることから始めましょう。」と呼びかけた。

続いて基調講演に立った坪井節子氏（弁護士・カリヨン子どもセンター理事長）は、「子どもたちに寄り添う～いじめ・虐待・少年非行の現場から～」と題して、ご自身が関わってきたいじめや不登校等の学校問題や少年事件、虐待、児童養護施設内の人権問題、子ども買春等の子どもの人権救済活動の体験をもとに、大人の中途半端な介入がどれほど子どもたちを苦しめ、非行に走らせ、自殺にまで追い込んでいるかを切々と訴えられ、子どもたちが「生まれてきてよかった。一人ぼっちではない。あなたの人生は、あなたしか歩めない」ということを確信できること、それが子どもの人権を保障することであり、それは教会の中で福音を語ることに他ならないと話された。そして、子どもの人権救済活動の中から、「NPO法人カリヨン子どもセンター」が設立され、「子どもシェルター」「自立援助ホーム」等の活動につながっている現状が紹介された。

続いてトークセッションが持たれ、村田紋子氏（小田原短期大学准教授）、服部榮氏（社会福祉法人雲柱社理事長）、田島実氏（神の家族主イエス・キリスト教会牧師）が講師として話をされた。

村田氏は、児童相談所に寄せられる虐待相談件数は、1990年度1,101件であったが、2012年度には66,701件となった。また、虐待によって死亡した子どもは2011年度99名であるという現状を述べられた。そして、虐待を受けた子どもたちを保護する児童養護施設で働いてきた経験から、虐待の多くは親が自分の欲求や満足のためであることが多いこと、また、教会が地域で活動する時の壁として、「宗教的」正しさの故に、体罰を肯定したり、子どもたちをさばき「あなたは悪い子なのだ」と責めてしまうことがあると述べ、「教会が地域で社会福祉に携わる時は、聖書を丁寧に読むと共に、『人権』について注意深くかつ徹底的に考えることを基盤として、自らの働きをきちんと説明していくことが責務ではないかと思う」と話された。

服部氏は、雲柱社が賀川豊彦の思想と実践（キリスト精神）を継承し、神と人にとに仕え、地域社会の福祉課題を積極的に掘り起こす事業に取り組んでいることを紹介しつつ、賀川豊彦が宣教と福祉とを一体として考えていたことから、地域の教会との繋がりを深めるために、地域の牧師を定期的に招いて話をしてもらう等の努力をしている。しかし、最近では教会が施設に関わる力が弱まってきているため、逆に施設が教会に関わり、活性化しようとしているという。また、施設の職員1,260名中、クリスチャンは50～60人しかおらず、ノンクリスチャンの人にも、年2回は教会の礼拝出席を奨励しているが、教会の敷居が高いと感じている人が多いのが現状である、と述べた。

田島氏は、足立区役所に12年間勤務した後2003年牧師に就任して福祉的需要よりも福音宣教に重点を置いて牧会を始めるが、熱心に伝道しても実を結ばないばかりでなく、教会が地域や学校と断絶に近い状態にあることに気づき始めたという。その後、伝道集会というものを一切中断し、チャリティバザーの開催等を通して、教会が地域に関心を抱き、門戸を開いていく中で、福祉的な需要が存在し、その担い手となれる可能性があることに気づかされたばかりか、そのような教会の活動に関して、地域の方々が関心を抱いて協力的になり、ますます地域との交流が深くなっていった。そして、問題行動が頻繁で学校では手に負えないような児童を預かったり、食事を提供したり、家庭訪問をしたり、学校に掛け合ったり、学習指導をしたりと、さまざまな福祉的教育活動をしてきた。それらの児童と家庭の多くは、礼拝にも繋がっていることが多いという。そして今後、より積極的に福祉需要を掘り起こしてアプローチする「学習支援事業」の立ち上げを検討している、と語った。

昼食を挟んだ休憩の後、分科会が持たれ、10のテーブルに、それぞれ約12～13名ほどの参加者が分かれて、①私たちにどのようなまなざしが必要か、②どのような関係の構築が必要か、③やるべきことは何か、について話し合いが行われた。

5. 感想

今回の参加者は、前回とほぼ同様約140人近くの人が集まった。場所的な利便さもさることながら、時代のニーズを反映して、「福祉」に対する関心の高さを表わしているのではないかと思われる。主催者によれば、クリスチャンだけでなく、キリスト教系の福祉施設に働くノン・クリスチャンの方たちも多く参加されているとのことである。

このようなフォーラムの開催を通して、福祉に関心を持つクリスチャンの働き人が多く起こされ、また地域福祉に取り組む教会が多く起こされて、教会の“復興”につながっていくことになれば、教会のあるべき姿としての観点からも非常に意義のある取り組みであると言えるのではないかと思う。

しかし、日本の教会の現実に照らして見た時、次のようなことをさらに考慮して進めていく必要があるのではないかと思う。

(1) 福祉に関わる働きの多くは、教会内だけでなく、地域の人や福祉施設あるいは専門家等との協力や協働が必要とされる。従って、まず牧師の理解と主体的な受け止め

がなければ、教会として地域福祉に取り組むことは非常に難しいと思われる。今回のフォーラムは、開催日が土曜日ということもあって、参加者の中に牧師の参加がそれほど多くはないように見受けられたが、そうであれば、別途、牧師に対する何らかの取り組みも必要ではないだろうか。

- (2) 福祉の働きは、専門的な知識や技能あるいは資格が要求される働きでもある。従って、働き人が多くいる自己完結型の教会はともかく、信徒の高齢化や青年層の減少等によって、働き人が少ない教会にとっては、そのような福祉の働きに取り組むたくても、現実的にはできないというジレンマに陥っている教会が大多数なのではないかと思う。そのような教会に対する“復興”策が別途必要なのではないだろうか。閉会の挨拶で、キリスト新聞社の代表の方が、「日本の教会は、このままでよいのかという危機感からこのフォーラムを立ち上げた」と言われていたが、そうであれば、なおさらのことではないかと思う。
- (3) 教会が福祉の働きに取り組むことに対する前提となる考え方としては、近年ローザンヌ運動によって提唱された包括的な福音宣教の理解がある。福祉の働きも、社会的責任、すなわち隣人愛に基づく社会貢献や地域貢献の大きな柱として位置づけられるものであると言えるが、フォーラムの分科会等の話し合いを聞いていても、前提となる社会貢献や地域貢献に対する理解が十分なされているとは思えないように感じる。福祉を含めた広い意味の社会貢献、地域貢献として、まず日本の教会が、何ができるのか、また、何をなすべきなのかの議論と分かち合いをもっと深めていく必要があるように思う。

◆ JEA「宣教フォーラム」2014 ◆

1. 日 時：2014年9月29日（月）10:30～16:00
2. 場 所：お茶の水クリスチャン・センター（OCC）8F
3. テーマ：「危機の時代を共に生きる」～教会ネットワークから学ぶこと～
4. 内 容：

JEA「宣教フォーラム」2014（共催 日本福音同盟（JEA）宣教委員会、第6回日本伝道会議（JCE6）実行委員会、DRC ネット）の開催趣旨として、JEA 宣教委員会の末松隆太郎委員長は次のように述べている。

「今回の『宣教フォーラム』は二つの危機に備えるためです。第一は、いつどこを襲うか分からない自然災害、第二は地域宣教の閉塞感です。このための備えは、地域の教会が交わりを深め、ネットワークを築き、互いの関係を緊密にすることと思われまます。先駆者の貴重な経験、ネットワークの現状と課題などを共有し、更に繋がりたく願います。」

このような趣旨に則り、プログラムとしては、次のような内容であった。

- (1) 主題講演：「福音宣教と教会ネットワークを考える」小平牧夫師（JEA 副理事長、JCE6プログラム局長）
- (2) パネルディスカッション
 - ①被災地ネットワーク：大友幸一師（宮城宣教ネットワーク）
 - ②首都圏防災ネットワーク：栗原一芳師（DRC ネット）
 - ③教会と宣教団の協力：高橋和義師（いっぽいっぽ岩手）
 - ④ユースネットワーク：西村敬憲師（JEA 青年委員会）
- (3) フクシマNOW
- (4) 分科会
 - ①伝道会議、②地域教会ネットワーク、③災害対応チャプレン、④女性のネットワーク、⑤国際人宣教協力
- (5) 閉会礼拝

主題講演において小平師は、日本伝道会議において「ネットワーク」という言葉が出てきたのは、2009年の第5回日本伝道会議の宣言文からで、宣言文には「宣教協力の実現」を目指して、「日本において」また「世界において」、「ネットワークを密にしていく」こと、また「相互ネットワークを拡大・強化する」ことが告白されている。そして、教会の宣教協力のあり方がネットワークとして取り組まれるようになったことは、これまで教会が取り組んで来た宣教協力の働きや組織のあり方に、どのような変化をもたらすのだろうか。またそこにどのような可能性を見いだすことができるだろうかと問い、エペソ4章16節の聖句から、次のようなキリストのからだとしてのネットワークの特質をあげられた。

①個の主体性：「一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により」、②相互のつながり：「しっかりと組み合わされ、結び合わされ」、③つなぐ結び目：「備えられたあらゆる結び目によって」、④からだとしての成長：「からだ全体は---成長して」、⑤全体を貫く価値観：「キリストによって---愛のうちに建てられる」

これら教会に与えられたネットワークの特質を活かして、具体的でダイナミックな宣教協力を進めようと、次のように呼びかけられた。

(1) つながり方をたえず見直そう：ネットワークにつながる各部分が、特質としてあげた①から⑤の各要素を、たえず見直して共有する作業を繰り返さなければ、機能(work)しない網(net)になる、

(2) 共有しているものを明確にしよう：「日本の教会は、ここに向かって取り組んでいる」と共に言えるような目標、すなわち日本の教会全体の成長を目指すための日本宣教の目標とそのための戦略を持ち、それぞれが与えられているリソースをもって他に貢献することを喜びとする志の高いネットワークを築く。

(3) チームワークを大切にしよう：私たちが一つのチームであるという意識を高め、監督のサインに忠実な野球型チームワークでなく、勝利のための戦略を共有するラグビー型チームワークを。

(4) 具体的な宣教協力を始めよう：JEA や JCE が結び目となって、宣教の具体的な分野における既存の働きをネットワークとして結びつけたり、各地域に宣教協力の働きを生み出し、それらが相互につながることによって、教会の働きと広がりにおける全体的成長を目指す。そして、失敗を恐れずに、ビジョンを持って力を合わせて取り組みましょう、と呼びかけられた。

続いてパネルディスカッションが行われ、最初に大友幸一師が、東日本大震災によって被災した宮城県内の宣教を、被災地内外を問わず開拓伝道をしたい教会及びキリスト者、宣教団及び宣教師がネットワークを組んで、その地にエクレスシア(家の教会、小教会)を建て上げることを目的として立ち上げた「宮城宣教ネットワーク」について話された。

現在、宮城県内を5ブロックに分け、各ブロックの世話人会を月1回持ちながら研修会や修養会、宣教大会等をネットワーク全体で協力して行っており、34の被災地宣教拠点に53名の牧師や宣教師等が働き人として関わっているとの報告がなされた。そして、このネットワークのゴールは、宮城県民のだれでも下駄ばきでいける数多くの教会を建て上げることであり、これをモデルにして、東日本宣教ネットワーク、全日本宣教ネットワークと全国に広がり、日本全土の教会増殖による福音化を実現することである、と述べられた。

次いで首都圏教会防災ネットワーク作りについて、栗原一芳師から話があった。首都圏直下型地震の発生する確率が高まる中、その地にある神の家族である教会が、まずお互いにどう助け合っているのか、また、どう地域の助けになっているのか、今から関係者が顔を合わせて話し合う必要があるのではないかとの思いから、諸教会、牧師会を訪問し呼びかけたところ、現在、台東区、戸田、板橋、大久保、NHK(新座・東久留米・清瀬)でネットワークが立ち上がり、近々西東京市、所沢市でも立ち上がる予定で

ある。NHK の場合、教会だけでなく、キリスト教主義学校、老人ホームなどもネットワークされているとのことである。また、現在までに30回ほど「防災啓発セミナー」を教会、教団、牧師会、ビジネスマン集会、地域コミュニティで行ってきたという。そして、ネットワークの目的は、「助けー助けられる、顔の見える防災コミュニティの創出」であり、ネットワークが形成されると一つの教会では難しかった行政や地域コミュニティとの関係も築かれていく、とその効用を述べられた。

高橋和義師は、2011年6月から国際福音宣教会（OMF）の期間限定被災者支援プロジェクトとして始まった「いっぽいっぽ」の働きが、2014年6月以降、日本福音キリスト教会連合（JECA）の開拓伝道の働きとして継続された。また、それとともに2014年3月、今後の支援活動において行政、地域社会との協力をしやすくするために、一般社団法人「いっぽいっぽ岩手」を設立し、伝道と支援活動の両方が円滑に進められるよう、組織間の調整を行いながら働きを進めてきた経緯と現在の活動について述べられた。

西村敬憲師は、「青年宣教におけるネットワーク」について、SNS を使用したネットワーク形成が、つながりやすさや帰属の自由さ、情報の拡散における地域格差等が減少し、青年の信仰生活の安定化につながる反面、ネットワークが実体のあるものとするためには、リーダーやコーディネーターの発掘、育成が重要であり、異文化的な場でアイデンティティを形成していくために、教理教育による神学的な判断力を積極的に養っていく場が必要であると述べた。

昼食をはさんだ後、「フクシマNOW」として日本同盟基督教団勿来キリスト福音教会牧師住吉英治師から、いわき市平から南相馬市にかけて通行が解除された国道6号線を車で走行した映像をもとに、福島放射能汚染の現状が報告された。

その後、①伝道会議、②地域教会ネットワーク、③災害対応チャプレン、④女性のネットワーク、⑤国際人宣教協力の各テーマに分かれ、分科会が持たれた。

5. 感想

今回特に印象に残ったのは、主題講演において小平師から、日本の教会全体の成長を目指すために、日本宣教の全体的な目標作りとそのための戦略作りの必要性、さらには、JEA や JCE がそのための結び目となって、宣教の具体的な分野における既存の働きをネットワークとして結びつけたり、各地域に宣教協力の働きを生み出し、それらが相互につながることによって、教会の働きと広がりにおける全体的成長を目指すことが提言されたことである。また小平師は、「すでに共同教会論等の論議は尽くされてきている。今後は実践に移る段階ではないか。ネットワーク作りと宣教協力に具体的に取り組みましょう」と力強く語ったことである。

また、小平師の提言を裏付けるように、「地域教会ネットワーク」の分科会を締めくくる発言として、JCE6実行委員長である竿代照夫師から、キリスト教会の現状の危機的な状況を踏まえて、「各教会が地域においてインパクトのあるローカルチャーチとなるように、何らかの運動体を起こす必要があるのではないか。JCE6としての具体的な提案を JEA に行うことも考えている」旨の発言があった。

私自身も分科会での参加者の発言を聞いていて、日本の教会の現状に対する危機意識が十分に共有されていないように感じ、小平師の提言を踏まえて、JEA が中心となって加盟教団・教派の参加のもと、日本宣教全体をにらんだグランドデザインを作成し、それをもとに各地域で具体的な宣教戦略作りを進めることができないか、との意見を述べさせていただいたので、竿代師の発言には非常に心強いものを感じた。

現在 JCE6 としては、2年後の第6回伝道会議の準備を進めている最中であり、今後どのような提案や動きが出てくるのか、期待を持って注目していきたいと思う。



カトリック新聞、キリスト新聞、
クリスチャン新聞、聖公会新聞

7月

◇ 集団的自衛権の行使容認に反対

安倍政権は、集団的自衛権の行使を容認する憲法解釈の変更について、閣議決定を目指し調整を進めている。昨年12月には特定秘密保護法が成立した。日本が戦争への道を進もうとしていることに、各教派のキリスト者たちが危機感を持ち、反対の声をあげている。

日基教団有志が「戦争を許さない東京キリスト者の会」を6月17日に立ち上げた。「特定秘密保護法に反対する牧師の会」は6月16日、野党各党の党首、副党首などの国会議員を訪ね、特定秘密保護法の撤廃と、解釈・明文改憲への動きを止めるよう要請書を届けた。日本同盟基督教団「教会と国家」委員会は6月16日、「憲法解釈変更による集団的自衛権行使否認を求める声明」を内閣総理大臣宛に送付した。日本キリスト教協議会は6月24日、「憲法第九条についての日本キリスト教協議会議長声明」を発表した。（キ5日付）

◇ 「集団的自衛権に反対」宗教者が集会

宗教者九条の和が主催する「集団的自衛権の行使に反対し、いのちと憲法9条を守ろう」宗教者共同アピールの第3次集約集会が6月18日、参議院議員会館で行われ、約90人が参加した。（キ5日、ク6日付）

◇ JEA新理事長に中台孝雄氏

日本福音同盟は6月2～4日、静岡県掛川市で第29回総会を開催した。JEA加盟の54会員（教団・教会）と43協力会員（宣教団体）から、129人が出席し、14年度事業計画などを協議・決定するとともに、16年度まで3年間の新しい理事会が発足し、新理事長に中台孝雄氏が選出された。（キ5日、ク8月10日付）

◇ ヘイトスピーチと宗教を問うシンポ

「死ぬ」「殺せ」「朝鮮半島に帰れ」など、在特会（在日特権を許さない市民の会）による在日韓国・朝鮮人を排斥するヘイトスピーチデモ。そうした日本社会での民族差別の動きに対し、多様な立場からのカウンターアクションが草の根レベルで起き、ヘイトスピーチの法的規制も

議論されてきている。そのような中で、クリスチャンはこの民族差別とどう向き合えばいいのかを考える対話集会「現代日本の『ヘイト』と向き合う」（キリスト教出版販売協会出版部会・販売部会主催）が6月20日、東京・新宿区西早稲田の日本キリスト教会館で開かれた。（キ5日、ク6日付）

◇ 卞在昌氏裁判、日韓の牧師が超教派で声明

国際福音キリスト教会牧師の卞在昌氏に対する民事裁判の東京地裁判決を受けて、日韓の牧師たちが6月25日、超教派で「健全な教会形成に資すべき教訓を、真摯に受け取るべき」との声明を発表した。（キ5日、ク6日付）

◇ パウロ研究の新しい視点から「福音」を問う

「『パウロ研究の新しい視点』から『福音』を問い直す」と題する研究会が6月16日、お茶の水クリスチャン・センターで、日本福音主義神学会東部部会の主催で行われた。新約聖書学を専門とする伊藤明生氏と岩上敬人氏が講演した。（キ5日、ク20日付）

◇ 東日本大震災仙台教区復興支援全国担当者視察・会議

「福島に生きる想い」聴く。（カ6日付）

◇ 中央協議会、「教会現勢」を発表

信者 昨年微増。（2013.12末時点）
全信者数：444,719人、信徒数：437,267人、聖職者数：1,454人、修道者数：5,480人、洗礼数：幼児2,683人、成人2,982人（カ6日付）

◇ 宗教者も“反対”の声

「集団的自衛権」行使容認で。（カ6日付）

◇ 被災地支援と福祉考える

日本キリスト教社会福祉学会。仙台市の宮城学院女子大学で大会。（カ6日付）

◇ アンは世の光・地の塩

『アンが愛した聖書のことば』の著者で、文筆家の宮葉子さんのトークイベントが、6月21日、東京渋谷区代々木のキリスト教書店「オアシス新宿店」で開かれた。L・M・モンゴメリ著『赤毛のアン』の背後にある聖書の視点と、主人公アンの生き方が示す、人生と教会を生き生きさせるあり方を語った。（ク6日付）

◇ 聖書考古学資料館創立20周年

古代オリエントや地中海世界の聖書に関連する考古学資料の収集、展示をとおして、聖書の正しい理解を日本に普及させることをビジョンに活動してきた聖書考古学資料館が、創立20周年を迎えた。6月21日にお茶の水クリスチャン・センターで行われた特別記念講演会では、

鞭木由行氏が「ラメセスⅡ世の実像～その戦績と事績を訪ねて～」と題して、約60人の聴衆の前に語った。(ク6日付)

◇ 特集:東京基督教大学・福祉

クリスチャンが将来の福祉を担うリーダーに。(ク6日付)

◇ 「東日本宣教ネットワーク 被災地キリスト教連絡会」全体会

東日本大震災から3年半。被災地の教会や支援ネットワークは、長期化する支援の必要から、地域をこえて情報交換や協力のための広域な連絡会を形成した。この連絡会の第2回全体会議が6月17日、仙台市青葉区の仙台バプテスト神学校で開かれた。岩手、宮城、福島、茨城などからの参加者があり、8団体からの報告の後、小グループで討議し、祈った。(ク6日付)

◇ 三浦綾子読書会伝道講座レポート(上)

2001年に東京でスタートした三浦綾子読書会は、現在活動を全国に広げ、国内外約100箇所、朗読会、演劇と活動の幅も広がっている。会がきっかけで受洗した人は70人を超えた。6月13日に行われた「伝道講座」は、伝道目的に書かれたその作品の解説と、それをいかに手段として活用していくかを内容とする。(ク6日付)

◇ 賛美CDで日本人に愛と平和を

包み込むような心地よい響きでしかも力強く、一度聴いたら忘れられない。そんな魅力的な歌声をもつオペラ歌手 Kumi-ko が、このたび賛美歌とオリジナル曲を収録したセカンドアルバムCD「Sweet Hour of Prayer」をリリースした。(ク6日付)

◇ 官邸前に怒り、嘆き、祈り

安倍政権は7月1日の臨時閣議で、憲法9条が禁じてきた集団的自衛権の行使を容認することを決定した。これを前後して、東京・千代田区の首相官邸前では大規模な抗議行動が行われ、全国各地から数万人規模の人々が連日押し寄せた。また、「特定秘密保護法に反対する牧師の会」や日本バプテスト連盟理事会、日本宗教者平和協議会は、それぞれ抗議と閣議決定の撤回を求める声明を発表した。(キ12日、ク13日付)

◇ 伝道と教育は宣教の2本柱

「宣教協力ー伝道と教育を通して」を主題に第41回東北アジア教会宣教協議会が6月12日から16日まで、日基教団九段教会を会場に開催され、韓国から20人、台湾から10人、日本から25人の計55人の教会代表が参加し、各国の課題を

共有する成果としての「共同声明」を採択した。(キ12日付)

◇ 「キリスト教美術展」の開催

キリスト教美術協会が主催する「キリスト教美術展」が、日基教団銀座教会・東京福音センターで7月13日まで開催されている。同協会は、カトリックの佐々木松次郎氏と、プロテスタントの田中忠雄氏が、それぞれ指導的立場で開催してきた美術展を発展的に解消し、1972年に設立されたもので、キリストを中心に、キリストの証しをする集団。その中で芸術作品を作って発表する集団であり、それが他の美術団体とは異なる同協会独自の趣旨だと事務局は語る。(キ12日付)

◇ 被災の教訓学ぶ

日本カトリック保育施設協会。仙台で全国職員研修。(カ13日付)

◇ 常任司教委員会ー「集団的自衛権」で抗議声明

(カ13日付)

◇ ブラジル人共同体がホームレスを支援

静岡・清水教会。11年前の事件きっかけに。(カ13日付)

◇ 災害に備える出版に見る宣教の本質

東日本大震災では、被災した人びとを物心両面で支える教会の役割が注目された。だが半面、突然の慣れない支援活動に戸惑い、対応に苦慮する例も少なくなかった。そうした経験を生かして、次に災害が起きたときへ備えようとする出版が相次いでいる。その一冊『危機対応最初の48時間 だれもが知りたい災害時のケア』の出版記念セミナーが6月28日、お茶の水クリスチャン・センターで開かれた。主催は DRCnet 災害対応チャプレン・プログラム委員会。(ク13日付)

◇ 「第1回教会あそびば」開催

「福島の子どもたちに遊べる場所を」との要請を受け、「教会あそびば」(キッズケアパークふくしま主催)が6月28日、福島市の保守バプ・北信カルバリー教会を会場に開催された。(ク13日付)

◇ 平和の福音宣べ伝える使命

沖縄基地問題や戦争責任の問題に取り組んできた渡辺信夫氏(日本キリスト教会東京告白教会前牧師)が、「私はどうして戦争反対のために生きるのか」と題して6月29日、神奈川県の日本キリスト教会横須賀教会で講演した。安倍政権のもと日本が戦争へ向かうことに危機感を抱

いた同教会が「平和に関する講演会」として企画。50人が参加した。(ク13日、キ19日付)

◇ 特集: 宣教・教育アイテム特集

聖書そのものが伝道する(聖書同盟)。トラクト配布は霊的備えから(プレイズ出版)。(ク13日付)

◇ 三浦綾子読書会伝道講座レポート(下)

『氷点』から始まった三浦綾子の作家生活35年の中、出版された冊数は82冊。これら三浦作品を使った読書会をはじめてみませんか?と三浦綾子読書会はすすめている。6月13日に行われた「伝道講座」でも、作品の解説とともに読書会をいかに伝道に用いるかが取り上げられた。(ク13日付)

◇ あの日、牧師たちは何をつぶやいたのか —7・1の記録(上)

7月1日、安倍内閣はこれまでの憲法解釈を変更し、集団的自衛権の行使を認める閣議決定を行った。この大きな転換点にあたり、官邸前で、教会で、書斎で、牧師たちは何をつぶやいたのか。徳丸町キリスト教会朝岡勝牧師、カンバーランド長老キリスト教会めぐみ教会荒瀬牧彦牧師、K G K大嶋重徳主事、カンバーランド長老キリスト教会国立のぞみ教会唐澤健太牧師のつぶやき。(キ19日付)

◇ 早稲田奉仕園がヘイトスピーチの標的に

公益財団法人早稲田奉仕園に隣接する日本キリスト教会館、AVACOビルに事務所を構える団体が7月6日午後、「第2回朝鮮カルト組織犯罪撲滅デモ」と銘打ったヘイトスピーチデモの標的にされた。クリスチャンや早稲田大学の学生ら有志は「愛着のある早稲田の街を、差別の蔓延する街にしたいくない」と約80人のヘイトスピーチデモに対しカウンター行動を決行した。(キ19日、ク20日付)

◇ 通信制課程を開設

仙台白百合学園高。女子限定で広域対応。(カ20付)

◇ 安全保障上、「沖縄に基地」が有利?

地政学の“ウソ”。(カ20付)

◇ 集団的自衛権行使容認に危惧の声

日本同盟基督教団小海キリスト教会水草修治氏の特別寄稿及び集団的自衛権行使容認が閣議決定されたことに対するクリスチャンの弁護士、沖縄の問題に詳しい識者、学生伝道主事、市民運動に関わる主婦などに話を聞いた。(ク20日付)

◇ 署名急増「憲法9条にノーベル平和賞を」— 7月7日に14万筆超える

市民により立ち上げられた「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会が「憲法9条を保持する日本国民にノーベル平和賞を」と呼びかけて来た署名が6月、10万筆を超えた。7月7日現在、146,089筆。実行委員会の話によると、「集団的自衛権の行使容認が現実的になってきたころから、寄せられる署名数が驚くほど増えている」という。(ク20日付)

◇ セクシャルハラスメント テーマに講演会

根強い差別、偏見による言動が社会でも取り沙汰される中で、教会も注意が必要だと「ハラスメントとは何か」と題した講演会が6月29日、上尾市のバプ連盟・上尾キリスト教会で開かれた。講師はバプ連盟セクシャル・ハラスメント防止・相談委員会委員の城倉由布子氏。(ク20日付)

◇ 東アジア共同体の形成を

東北地方を中心に襲った巨大地震と大津波、さらに原発事故での放射能汚染—この神からの問いに私たちはどう応答すればよいのか?「死者の救いと生き残りの者の使命—東日本大震災後の日本の人々の魂の課題—」と題し、聖学院大学理事長阿久戸光晴氏を招いての講演会が6月21日、日基督教団富士見町教会で開かれた。(ク20日付)

◇ WCC中央委声明発表

世界教会協議会中央委員会が、7月2日から8日まで本部があるスイス・ジュネーブで開催された。今回、中央委員会は4つの「声明」を採択した。その中の2つは日本関連で、昨年11月の第10回総会で審議未了のためこの中央委員会に付託されていたもの。この地上からあらゆる「核」を取り除くことを求める「非核世界の実現を求めて」と、今回の中央委員会で、委員である日本聖公会の西原廉太司祭が提案した「日本国憲法第9条の再解釈についての声明」である。(聖25日付)

◇ あの日、牧師たちは何をつぶやいたのか —7・1の記録(下)

それぞれの場で7月1日を迎えた牧師たちは、何を思い、何を語ったのか。日本ホーリネス教団川越高階キリスト教会杉浦紀明牧師、国際基督教大学並木浩一名誉教授、日基督教団山梨教会西堀俊和牧師、学生キリスト教友愛会野田沢主事のつぶやき。(キ26日付)

◇ 脆弱さの中でいま言えることを

宣教に関する神学的、歴史的、社会的、実践的な学問的研究の促進を目的としている日本宣教学会が7月5日、第9回全国研究会を清泉女子大学で開催した。会員を中心に約40人が参加した。米・海外宣教研究センター所長のネルソン・ジェニング氏による基調講演「最近の福音宣教に対する声明ー比較と分析」に続き、4人の研究発表が行われた。(キ26日付)

◇ 賀川の聖書解釈 現代性に注目

「賀川豊彦はヨブ記をどう読んだか」と題する講演会が7月3日、同志社大学クラーク記念館で行われた。現代神学研究クラス的一般公開講座として開催され、国際基督教大学並木浩一名誉教授が講壇に立ち、約50人が出席した。(キ26日付)

◇ 宗教は平和にどう貢献できるか

平和の実現のために諸宗教にどのような貢献ができるのかを考えようと、「平和を築くー宗教は何を託されているのか」と題する連続講演会が6月28、29日、上智大学で同大学キリスト教文化研究所の主催で開催され、6人の講師が講演した。(キ26日付)

◇ 「富士の聖母」50年

全世界の子の平和願って。(カ27付)

◇ 「長崎の教会群」など世界文化遺産の候補に

長崎大司教がコメント。(カ27付)

◇ 子どもは世界を変革する力を持っている

ー4/14ウィンドウ・リーダーシップサミット開催

キリストを信じる決心をする人の71%が4歳から14歳であるという統計を踏まえ、子どもと青年への伝道や教会教育を励ます世界的な運動、4/14ウィンドウが日本でも、各団体や教会リーダーの協力で展開されている。

11月のカンファレンスに向け、7月12日、お茶の水クリスチャン・センターで、リーダーシップサミットが開かれた。創始者のルイス・ブッシュ氏が来日して講演。子どもたち自身の宣教を励ます意義を語った。(ク27日付)

◇ 被災地特産品取り寄せて教会がチャリティ販売

震災直後から物資援助、医療奉仕などで被災地支援活動をしてきた同盟基督・招待キリスト教会は7月12、13日、気仙沼市の特産品を取り寄せて販売する「気仙沼復興応援市 in 川崎」を開催。駅前商店街に面する教会で、産地直送された30品以上を販売した。2日間の売り上げは43万円余りで、すべて気仙沼市の復興支援金としてささげられる。(ク27日付)

8月

◇ いのり☆フェスティバル関西2014

今年3月に日基教団東梅田教会で開催された「いのり☆フェスティバル関西2014」のメイン企画である「教会女子」によるガールズトークの一部を抜粋して紹介。(キ2日付)

◇ ヘイトスピーチに10団体が抗議

7月6日に西早稲田の日本キリスト教会館を対象にヘイトスピーチのデモが行われたことに対し、キリスト教10団体が16日、共同で抗議声明を発表した。(キ2日付)

◇ 聖書に親しむ運動に 第1回聖書クイズ王位決定戦

クイズを通して楽しみながら聖書の世界に親しみをもち、広く聖書愛読を推奨することを目的とする「第1回聖書クイズ王位決定戦」(日本聖書協会主催)が7月21日、東京銀座フェニックスプラザで開かれた。全国各地から教職者や信徒、学生などが家族、友人などを連れ添い3人1組で応募し、全11組33人が熱戦を繰り広げた。

聖書クイズ大会はシンガポール、インドネシア、台湾、南米など世界各国の聖書協会で、場所によっては千人規模など盛んに実施されている。今回、日本初上陸となった。(ク3日、キ16日付)

◇ 足尾鉍毒事件から福島原発事故を考える

昨年、没後100年を迎えた田中正造が生涯をかけて取り組んできた足尾鉍毒事件が、福島第一原発事故以降、再び注目を集めている。毎年夏に開催する信州夏期宣教講座の世話人会は、「2014年信州夏期宣教講座エクステンション」として、足尾鉍毒事件から福島原発事故を考える集いを7月21日、田中正造の生誕地・栃木県佐野市にある福音伝道・佐野オリーブ教会で開催。渡良瀬川鉍毒根絶太田期成同盟会常任委員の安田耕一氏、佐野オリーブ教会牧師の中林篤郎氏が講演した。(ク3日付)

◇ 第2回神戸パートナー会議

2016年9月27日～30日に神戸市の神戸コンベンションセンターで行われる第6回日本伝道会議の第2回神戸パートナー会議が、7月17日に神戸市の青谷ルーテル教会で開かれた。開催地での委員会結成など2年後の本番に向けた具体的な取り組みが始動した。(ク3日付)

◇ 情報公開求め濫用に歯止めを一特定秘密保護法に教会はどう向き合うか

「特定秘密保護法の闇～教会はこの法律とどう向き合うのか」と題する学習会が、7月18日、日キ教会・蒲田御園教会で開かれ、約30人が出席した。主催は日本キリスト教会東京中会靖国神社問題特別委員会。講師は弁護士で安倍靖国参拝違憲訴訟弁護団事務局長の井堀哲氏（バプ連盟・八王子めじろ台バプテスト教会会員）。前日、政府が特定秘密保護法の「運用基準」を公表した直後であり、タイムリーな企画となった。

井堀氏は、この法律が①秘密の範囲、②秘密の期間、③人的管理、④罰則強化の主要な項目からなることを説明、それぞれの問題点を指摘した。（ク3日、キ9日付）

◇ クリスマン自死遺族の自助グループ発足

7月12日、名古屋市の東海聖書神学塾において、第一回クリスマン自死遺族会が開催され、地域の方々5名含め、各県から10名の出席で開催された。会の名前も「ナインの会」と命名された。（ク3日付）

◇ 池住義憲氏が「積極的平和主義」を考察

安倍首相の「積極的平和主義」とは何を意味するか。「積極的平和主義の『積極的』とは何かーキリスト者として」と題して、立教大学教授池住義憲氏が7月10日、富士見町教会で講演した。日本キリスト教連合会が主催した。（キ9日付）

◇ 聖公会、原発問題の小冊子発行＝原子力依存転換、再生可能エネルギー追求

日本聖公会「原発と放射能に関する特別問題プロジェクト」がこのほど、小冊子『原発問題についてのQ&A』を発行した。（キ9日付）

◇ 第16回全ベース会議／第29回仙台教区サポート会議（カ10付）

◇ 「継続支援」で被災地ツアー

名古屋教区社会福祉委員会主催。（カ10付）

◇ 「集団的自衛権」背後に靖国

歴代内閣が行使を禁じてきた集団的自衛権行使容認を安倍内閣が閣議決定したことを受け、政教分離の侵害を監視する全国会議は7月26日、公開学習会「安倍内閣の改憲阻止緊急集会ー敗戦69年を前にー」を、矯風会会館で開催。国会傍聴を15年続けて来た西川氏は、「今は集団的自衛権にだけ注目が集まり、表に出て来ないが、秋の臨時国会以降、靖国神社問題が最重要テ

マになる可能性がある」と警鐘をならした。（ク10日付）

◇ バイブルハウス南青山で「ネコと花々」写真展

表参道ヒルズや流行のスイーツ店など、常に賑わいを見せる街・南青山。その青山学院大学にほど近い骨董通りに「バイブルハウス南青山」はある。日本聖書協会が直営するオシャレな外観のキリスト教書店だ。現在、店内ギャラリーでは「ネコと花々」と題し、写真家の広路和夫さんの写真展が開催されている。会期は7月12日から9月15日。（ク10日付）

◇ 次の災害が来る前に 大震災の教訓生かそう

東日本大震災で多くのボランティアを送ったクラッシュジャパンのジョナサン・ウィルソン代表が、その経験から学んだ、次に災害が起きたとき、知っておけば役に立つことをまとめた『震災ボランティアは何ができるのかー3・11「希望の絆」の記録』の出版記念セミナーが7月26日、千代田区のtギャラリーで開かれた。（ク10日付）

◇ パスターズスクール 地域調査・教会評価でビジョンを刷新

日本バプテスト教会連合では、所属する教会を対象に、2011年からパスターズスクールを開いている。米国で教会成長をサポートするピナクル・ミニストリーが開発したリツール・キットを利用し、現在、関東から6人の牧師がプログラムに参加している。全6回の学びがあり、リーダーシップの確認から、教会の現状評価、地域のニーズ調査を経て、教会のビジョンを作成し、実行に移していく。第3回目の学びが、6月29日、30日に公開プログラムとして実施された。（ク10日付）

◇ 8.15特集 対談／戦時下賛美歌集の闇 天皇賛美・戦意高揚の賛美歌 教会が主体的に創作・頒布

1945年の敗戦から69年。この年の2月に『戦時下の教会が生んだ讃美歌』が出版された。戦時中、日本のキリスト教会がその国策に同調し、さまざまな形で戦争遂行を支持、加担してきたことに対する検証が今までなされてきたが、この本によって、今まであまり知られていなかった戦時下の賛美歌の問題がさらに深く掘り起こされることとなった。8月15日を前に、この本の著者の石丸新氏と戦時中の賛美歌集を復刻出版した辻子実氏にその思いを語ってもらった。（ク10日付）

◇ 日本ルーテル神学校 臨床牧会教育を他教派に開放 霊性についての研究・講座も

日本ルーテル神学校はこのほど、教会を力づけ、牧師の牧会力を高め、信徒の霊性を養うことを目的とした付属研究所「デール・パストラル・センター」を開設した。7月26日に「スピリチュアルペインとそのケア」をテーマに、創立記念シンポジウムを日本福音ルーテル東京教会で開催した。(キ16日付)

◇ WCC議長が官房長官と面会

世界教会協議会の張裳議長らは8月4日、総幹事代理として首相官邸を訪れ、菅官房長官と面会した。7月にWCC中央委員会で採択された「核から開放された世界に向けて」「日本国憲法第9条の再解釈について」の2声明を手渡した。西原廉太(WCC中央委員)、加藤誠(日本基督教団幹事)、上田博子(前NCC総幹事代行事務取扱)、面会をアレンジした野口陽一(庭野平和財団)の各氏も同席した。(キ16日、ク24日、聖9月25日付)

◇ 為政者たちに断固として否を 日基督教団と在日大韓基督教会が平和メッセージ

日基督教団総会議長・石橋秀雄氏と在日大韓基督教会総会長・趙重來氏は連名で8月1日、「2014年平和メッセージ」を発表した。(キ16日付)

◇ 「過ち」繰り返さぬために

広島：「あきらめている暇」はない、長崎：平和実現の道を主により頼んで、比叡山宗教サミット：教派超え世界平和祈る。(カ17付)

◇ 第20回英連邦戦没捕虜追悼礼拝「平和の継承」次世代へ

第20回英連邦戦没捕虜追悼礼拝(同実行委員会主催)が8月2日、神奈川県横浜市保土ヶ谷区の英連邦戦没者墓地で開かれた。毎年8月第1土曜日に開かれている同追悼礼拝は、戦時中、日本軍捕虜として日本に連行され亡くなった1800人あまりの連合軍兵士を追悼しようと、永瀬隆(元日本陸軍通訳、故人)、斉藤和明(国際基督教大学名誉教授、故人)、雨宮剛(青山学院大学名誉教授)の3氏の呼びかけで、戦後50年にあたる1995年から始まった。当日は真夏の炎天下の中、約190人が集った。(ク17日付)

◇ 時代と文脈に即し再編・協力を 第7回神学校図書館フォーラムで中村敏氏講演

プロテスタント神学校の図書館スタッフらが集い、学びと交流を深める、神学校図書館フォーラムの第7回が8月1日、お茶の水聖書学院で開かれた。公開講演では、新潟聖書学院院長

中村敏氏が「神学校の過去・現在・未来」と題して話した。(ク17日付)

◇ 映画「塩狩峠」が8月16日・19日に公開上映

シネマヴェーラ渋谷の監督企画映画祭「甦る中村登」で作家・三浦綾子の代表作を映画化した「塩狩峠」(中村登監督作品、1973年、16ミリ、102分)が、8月16日(土)と19日(火)の2日間に合計5回上映される。16ミリ、35ミリフィルム作品を上映できる数少ない日本映画の常設“名画座”での上映に、映画作品としての醍醐味が味わえる。(ク17日付)

◇ ログス点字図書館 点字・録音版を制作 フランシスコ会訳の新約聖書 (カ24付)

◇ 女性の司祭環境改善へ 日本聖公会が特別委を設置(カ24付)

◇ 反省なしに平和は語れない ヒロシマ被爆から69年 被爆の非人間的状況

被爆69年を迎えた8月6日、広島は43年ぶりの本格的な雨の朝を迎えた。被爆・戦争体験者の平和の思いに反し、日本や世界では、たえず戦争の危機が言われ、核・原子力利用はむしろ再燃している。そのような中、毎年、広島平和記念公園内の原爆供養塔前で行われる「キリスト者平和の集い」(広島市キリスト教会連盟主催)が6日夜に開かれ、参加者は被爆経験をした牧師の声に耳を傾けた。(ク24日付)

◇ 喧噪でも、灯火絶やさず ヤスクニ・キャンドル行動

「平和の灯を！ヤスクニの闇へ 2014 キャンドル行動」が8月9日、在日日本韓国YMCAで開催。シンポジウムなどの集会の後、参加者一人ひとりがキャンドルを持ち、「ヤスクニノー！戦争反対」のシュプレヒコールを上げながら、神保町、水道橋近辺をデモ行進した。(ク24日付)

◇ クリスマン都道府県人会が2周年

ふるさとを愛するクリスマンのネットワーク作りを目指す「クリスマン都道府県人会」は2012年6月に発足してから、2周年を迎えた。記念集会在8月1、2日にお茶の水クリスマン・センターで開かれ、富山県出身の中村啓子さん(ナレーター)、岡山県出身の森下辰衛さん(三浦綾子読書会代表)が講師となり、信仰の証し、ふるさとへの思い、移住の決断について語った。(ク24日付)

◇ 被災地で歌い日本宣教目指す 韓国人シンガーキム・スジンさん

韓国のゴスペルシンガー、キム・スジンさんのコンサートが、7月20日に大阪市北はなインターナショナルバイブルチャーチで、また午後からはインターナショナルチャーチ南大阪で開かれた。スジンさんは、来年から日本で芸能活動を通して宣教したいというビジョンを抱いている。(ク24日付)

◇ 大阪大司教に前田司教 パチカンが発表 着座は9月23日 (カ24付)

◇ 広島教区 土砂災害地への支援を 青年信徒ら泥かきのボランティア (カ24付)

◇ 一般施設で修道生活 高齢シスターの新しい試み＝援助修道会 (カ24付)

9月

◇ 「原発ゼロ」以外に生きる道なし 森野善右衛門氏が新「自然の神学」強調

「原子力と人間を考える—自然と人間の共生」をテーマに、森野善右衛門氏(日基教団関東教区巡回牧師)が8月5日、日基教団梅ヶ丘教会で講演した。同教団東京教区西南支区社会担当協力委員会(小河由美子委員長)主催の第27回「平和と核廃絶を祈るつどい」での講演。66人が出席した。(キ6日付)

◇ “河野談話を発展させたい、8・15東京集会で渡辺美奈氏

「日本軍『慰安婦』制度が問うていること」と題して、アクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam)事務局長の渡辺美奈氏が8月15日、「第41回 許すな!靖国国営化 8・15東京集会」で講演した。会場の在日本韓国YMCAアジア青少年センター(東京都千代田区)に約130人が集った。(キ6日付)

◇ 広島土砂災害 サポートセンター始動(カ7日付)

◇ 支援拠点も「共同体」 唯一の住み込みシスター 宮城・カリタス石巻ベース (カ7日付)

◇ 「8・15は“解放”の日」 姜尚中学長が要望 聖学院大学で平和を祈る礼拝

敗戦から69年目を迎えた8月15日、今年も各地で平和を求める集会、祈祷会、講演会などが開かれた。埼玉県上尾市の聖学院大学チャペルでは、「平和の祈り8・15」が開かれた。同集会は今の日本を取り巻く情勢を覚え、姜尚中学長

の強い要望により、キリスト教の礼拝形式、一般公開で開催された。(ク7日付)

◇ 広島土砂災害:近隣の教会ネットワーク 支援活動開始 JIFHなど救援団体とも協力

広島市北部で8月20日未明に発生した土砂災害で、安佐北区八木の日本バプテスト同盟広島平和キリスト教会(大谷孝志牧師)の周辺地域が大きく被災した。家屋など被災した教会員がいるという。大谷牧師は「地域の安心のため、被害で亡くなられた八木地域の25人の方々の家族のため」に祈りを要請している。広島市内を中心とした教会とキリスト教団体のネットワーク「広島宣教協力会」(拝高真紀夫会長)は、日本飢餓対策機構(JIFH)などの救援団体と協力し、支援活動を開始した。(ク7日付)

◇ 戦時に閉じた神学校が残した嵐の中で問われる信仰 改革派西部中会8・15集会

日本キリスト改革派西部中会世と教会に関する委員会主催8・15集会が、8月15日に改革派・神港教会で開かれた。戦争体験者による『戦時証言』をしたのは1931年生まれの改革派灘教会の加藤肇長老。「戦中教育」と題して、国民学校6年から終戦を迎えた中学2年までの日記をもとに当時の状況を振り返った。(ク7日付)

◇ 日本ローザンヌ新委員長に倉沢正則氏 全世界に御国を広げる橋渡し

「日本ローザンヌ委員会」の新委員長に、倉沢正則氏が前任の金本悟氏を引き継ぎ、就任した。8月18、19日に開かれたJCLビジョンリトリート内で開かれた総会で承認された。(ク7日付)

◇ 聖書版トレーディングカードゲーム「バイブル・プレイヤーズ」第1回公式大会に75人参加

小学生男子に人気のトレーディングカードゲームの聖書版、「バイブル・プレイヤーズ」の第1回公式大会(バイブル・プレイヤーズ公式大会実行委員会主催)が、8月16日中野サンプラザで開催された。参加者総勢75人の中から、小学生以下の「ジュニア部門」では4年生の浅利大輝くん(茨城県)が、一般の「オープン部門」では原田二千翔さん(22歳、長野県)がそれぞれ初代チャンピオンに輝いた。(ク7日付)



◇ 知恵出し、思慮ある抵抗を 東京告白教会平和講演会で渡辺信夫氏

軍事問題や歴史認識の見直しなど戦後日本の枠組みが転換されようとする中、「抵抗することの意義—戦前・戦中・戦後を生きたキリスト者の証言」と題した平和講演会が8月12日に上北沢区民センターで開かれた。講師は従軍体験者で91歳の渡辺信夫さん（東京告白教会牧師）。（ク7日付）

◇ シンポジウム「ドイツ・アメリカからみるヤスクニ」開催

P・シュナイズ氏「暴力使わずに問題解決を」、D・ラミス氏「日米同盟には大きな矛盾」

「靖国参拝は『平和の維持』に必要か?!——世界からみるヤスクニ」を主題に、「平和の灯を！ヤスクニの闇へキャンドル行動」（同実行委員会主催）が8月9日、在日本韓国YMCAアジア青少年センター（東京都千代田区）で開催された。延べ500人が参加した。（キ13日付）

◇ 教会・団体から支援広がる 広島市北部土砂災害

8月20日未明に降り続いた豪雨により、広島市北部では大規模な土砂災害に見舞われ、カトリックの信徒が一人亡くなり、床下に水が入った教会もあった。被災地では行方不明者の捜索が続けられ、死者は70人を超え、避難生活は1000人を超えている。教会関係の災害連絡のネットワークができ、キリスト教関係の支援団体が支援、連携しての活動も始まっている。（キ13日付）

◇ 性意識の「混乱」か「多様性」か キリスト教性教育研究会で議論

キリスト教性教育研究会（会長・富永國比古、ロマリンダクリニック院長）が主催する第7回公開研究大会が8月14日、自由学園（東京都東久留米市）で行われた。北中晶子（国際基督教大学教会牧師）、梶井小百合（養護教諭）、高木実（キリスト者学生会総主事）、藤田桂子（ジャパングリエイティブミニストリー代表）の各氏が、教会、学校、社会教育の現場から実体験をふまえて報告した。（キ13日付）

◇ 道徳教科化反対など四つの要請 全国キリスト教学校人権教育研究協議会

全国キリスト教学校人権教育研究協議会（関田寛雄会長）は8月7、8日、福岡女学院中学・高等学校（福岡市）を会場に、「第25回全国キリスト教学校人権教育セミナー」を開催した。「『見えなくされている』人々の声に聴く」をテーマに分科会などが行われ、約110人が参加

した。

総会では、①日の丸・君が代を学校で強制しないで、キリスト者公立学校教員の不起立処分を撤回すること、②朝鮮学校の無償化排除を撤回すること、③歴史教科書採択介入を行政は止めること、④道徳教科化に反対する—という四つの決議を行い、要請書を作成した。（キ13日付）

◇ 常任司教委員会「平和を求める祈り」10月5日、日本全国で（カ14日付）

◇ 人種差別に関する国連審査 日本に約30項目で勧告（カ14日付）

◇ 第40回9・1集会 朝鮮人虐殺から91年、再び起こる憎悪の「闇」に すべての民は目覚めよ

顕在化する在日外国人に対するヘイトスピーチデモに対して、8月29日にジュネーブの国連人種差別撤廃委員会は、日本政府に対し法的規制を勧告した。そのような中、91年前の関東大震災後の朝鮮人虐殺を覚え、在日韓国人・朝鮮人の人権を考える「9・1集会」の第40回9月1日に在日韓国YMCAで開かれた。講演や新刊評伝、国連陳情の報告から、「在日」の歴史、現在、未来が語られた。（ク14日付）

◇ 日本同盟基督教団「国外宣教50周年2014年世界宣教大会」開催

日本同盟基督教団は、国外宣教50周年を記念し、「2014年世界宣教大会」を8月14日から16日まで、川崎教育文化会館で開催。テーマは創世記13章14節から「さあ、目を上げて」。教団外から郷家一二三（坂戸教会牧師）、マイケル・オー（ローザンヌ運動総裁）の各氏を招いた。同大会には、全国からのべ1,138人が集い、10、20代の若者が多数、信仰決心、献身の表明をした。（ク14日付）

◇ 第22回信州夏期宣教講座開催

日本の宣教史を再考する場としての、第22回信州夏期宣教講座が上田市の霊泉寺温泉中屋旅館を会場に8月25～27日に開催された。テーマは「特定秘密保護法施行に向かう日本で—」具体的な政治・社会状況も踏まえ、背後の歴史、日本人性という観点に深め、日本における宣教、牧会、教会形成の課題として参加者どうして討論した。（ク14日、21日付）

◇ シオンとの架け橋主催「政治と宗教から中東の平和を考える」

「シオンとの架け橋」（事務局＝神戸市中央区）主催の「政治と宗教から中東の平和を考える集い」が、東京は8月14日に大手町サンケイ

プラザで、大阪は17日にエル大阪・南ホールで開かれた。講師はイスラエルの元外交官で平和活動家のイラン・バルーフ氏と、エルサレム在住のメシアニック・ジューで、キリスト教とユダヤ教の狭間で活動する宗教指導者のヨセフ・シュラム氏。大阪では、和平交渉の最前線で戦ってきた2人の話を聞こうと約160人が集まりホールを満席にした。(ク14日付)

◇ 国、言葉こえて一つに——初来日「讚美之泉」をつないだ人々

米国カリフォルニア州を拠点に、中国語圏に向けて音楽伝道活動を続ける「讚美之泉」が初の日本ツアーを実現した。7月からアジアツアーを実施し、シンガポール、香港、台湾、中国のシェンチェンで、数千人規模の集会を開いてきた。同時に初の日本語CD・DVDアルバム「小さな夢」も発売。国籍や言語を超えた、この賛美の働きが来日にいたった経緯には、米・中・日のクリスチャンたちの出会いと、近年の国内外の宣教協力の活発化があった。(ク14日付)

◇ キリスト教出版販売協会第57回夏期例会再編視野に討議

出版不況と言われて久しい。今年は都内でも専門書店の閉店が相次いだ。老舗のキリスト教専門版元、書店、取次各社が加盟するキリスト教出版販売協会は、毎年夏に研修と交流の機会を設けている。57回目を迎える今年は、桜美林大学多摩アカデミーヒルズに会員社36社から49人が集まった。今回の主題は「業界再編」。今後の展望を見据えつつ、目前の避けられない危機をどう乗り越えるのか。キリスト教出版に携わる社員らが、9月1日から2日間にわたって熱い議論を繰り広げた。(キ20日付)

◇ 本屋大賞受賞で八木谷涼子氏コメント「行きやすい」教会は「居心地良い」

キリスト教出版販売協会が主催し、専門書店スタッフの投票によって決められる第4回キリスト教本屋大賞には、八木谷涼子氏の『もっと教会を行きやすくする本』が選ばれ、9月1日の授賞式では、同氏による受賞コメントが紹介された。(キ20日付)

◇ 元気じろしの「神の共働者」へ 更新伝道会大会で棚村重行氏講演

「日本におけるメソジスト教会—メソジストの信仰に生きた人々」を主題に、更新伝道会の第43回大会が8月25～26日、青山学院大学で開催され、計174人が出席した。

25日には棚村重行氏(東京神学大学教授)が、

「人はどう神に変えられ、変わるのか—」・ウエスレーから『花子とアン』の時代のメソジストまで」と題して講演した。(キ20日付)

◇ 折り合いをつける「しなやかさ」を 西平直氏が上智人間学会大会で基調講演

「共生社会を問い直す」をテーマに上智人間学会の第42回学術大会が8月29日、上智大学で開催された。西平直氏(京都大学大学院教授)が「共生とアイデンティティー折り合いをつけるということ」と題して基調講演を行った。(キ20日付)

◇ 23日に「いのり☆フェスティバル」市川森一さん偲ぶトークライブも

教会・団体・企業・学校・サークル・個人のためのフリーマーケット「いのり☆フェスティバル」(略称=いのフェス)が、今年も早稲田奉仕園で9月23日に開催される(同実行委員会主催、キリスト新聞社、いのちのこば社出版部、早稲田奉仕園ほか協賛)。

キリスト教につながるあらゆる関係者が教派や企業、学校の「枠」を越えて一堂に会し、互いの活動をシェアしつつ教会内外に発信するのがねらい。日基教団東北教区被災者支援センター・エマオや、今月20日に開局するカトリック系ネットラジオ「カトラジ！」などが活動を紹介するほか、神学生有志によるカフェ、教会、飲食店などが出展を予定している。キリスト教リサイクルショップ「復活書店」も同会場で古書セールを開催する。(キ20日付)

◇ 教皇フランシスコ 見返り求めない愛を 福音とは、いつくしみを示すこと (カ21日付)

◇ 教皇フランシスコ 戦争は必ず避けられる全て「愚かな大量殺りく」(カ21日付)

◇ 武蔵野ダルクの女性ハウス “危険ドラッグ”報道が直撃 差別・偏見、立ち退きへ 暴力被害と市販薬が薬物依存の引き金に (カ21日付)

◇ 『愛は、あきらめない』拉致調査報告目前に、横田早紀江さん出版

日朝両政府が今年5月、拉致被害者らの再調査に合意したことで拉致問題解決への動きに注目が集まる中、拉致被害者の横田めぐみさんの母早紀江さんは『愛は、あきらめない』をいのちのこば社フォレストブックスから出版。その出版記念記者会見が9月11日、東京・中野区中野のいのちのこば社で開かれた。(ク21日付)

◇ 教会信徒宅にも被害 現地で炊き出し実施 一丹波・福知山地域の土砂災害情報

8月16日から発生した大雨土砂災害で、福知山市では聖イエス・福知山教会(篠田博牧師)は高台にあり、被害はなかったが、信徒宅で床上浸水。信徒らと2日間かけて清掃活動をした。移転も検討しているという。床下浸水も2、3件。福知山福音自由教会(安孝明牧師)は信徒宅でがけ崩れが1件、床上浸水が1件、床下浸水が2件。信徒の実家が、土砂崩れの被害を受けた。日本基督教団京都教区の福知山の3つの教会自体には被害はなかった。

福知山教会(李相勁牧師)は信徒数人の家で床上浸水。「京都教区 福知山地域豪雨水害被災者支援募金」を開設している。

丹波市では、教会の被害はなかった。日基督教団・成松伝道所(大野顕二牧師)は、雨水の床下浸水があったが、回復。近隣に土砂被害があった。(ク21日付)

◇ 第15回「地方伝道を考える—自立と連帯—」 「教会の存在が信徒の存続を左右する」

北関東神学研修センター主催の第15回シンポジウム「地方伝道を考える—自立と連帯—」が8月25、26日、峡南キリスト教会を会場に開かれ、教職者、信徒合わせて約30人が参加した。(ク21日付)

◇ 第46回日本伝道の幻を語る会で小友聡氏「終わりの日が近いのを意識し徹底して福音の種を蒔く」

日本キリスト伝道会主催の第46回日本伝道の幻を語る会が8月18日から20日まで、「『今こそ福音の時!』—この終末の時代に—」を主題に、山崎製パン企業年金基金会館市川サンシティで開催。講演Ⅱでは、小友聡氏(東京神学大学教授)が語った。(ク21日付)

◇ 民福協 日本のリバイバル見据えるフォーラム 「日本宣教妨げているもの」探る

日本民族総福音化運動協議会第2回フォーラムが、9月1日～3日に京都市のコミュニティ嵯峨野で開かれた。テーマは「日本宣教を妨げているもの」。(ク21日付)

◇ 芸術・芸能/若手クリスチャンアーティストら 星野富弘の詩を歌う

詩画家星野富弘さんの詩を若手クリスチャンアーティストらが曲をつけて歌う「Color of Tomihiro Hoshino」(富弘美術館を囲む会 東京・神奈川支部主催)が9月6日、東京・渋谷区の東京山手教会で開かれた。(ク21日付)

◇ 平和への祈りと学び 夏の各地で

広島では、原爆記念日の8月6日、広島復活教会で「広島原爆逝去者記念聖餐式」が捧げられた。長崎では、原爆記念日の8月9日、長崎聖三一教会で「長崎原爆記念礼拝」が捧げられた。仙台では、8月11日から5日間、第7回日韓聖公会青年セミナーが開催され、スタッフを含めて韓国側から15名、日本側から18名の参加があった。(聖25日付)

◇ 世界の平和と人権守るため具体的行動へ日本が先頭に

憲法学者の稲正樹氏(国際基督教大学教授)が8月31日、日基督教団埼玉和光教会(埼玉県和光市、三浦修牧師)主催の「憲法・平和学習会」で「平和憲法の現在と将来」と題して講演。日本国民は、平和主義の原典に立つ理想の達成へ努力すべきだと訴えた。(キ27日付)

◇ 安藤理恵子氏「見えないものを用いる神」キリスト者医科連盟が岡山で総会

日本キリスト者医科連盟(黒川純常任委員長)は8月15～17日、アークホテル岡山(岡山市北区)で第66回総会を開催した。「見えないものをも用いられる主の導きを求めて」と題し、講師に安藤理恵子氏(玉川聖学院学院長)を迎え、医療・福祉に携わる関係者約90人が全国各地から集い、信仰を持って医療に従事することの意味を深めた。(キ27日付)

◇ 「難民映画祭」10月4日から UNHCR駐日事務所が各地で開催

国連難民高等弁務官(UNHCR)駐日事務所は10月4日から「UNHCR難民映画祭」を、イタリア文化会館、セルバンテス文化センター東京、グローバルフェスタ Japan2014、明治大学和泉キャンパス、北海道大学札幌キャンパス、関西学院大学西宮聖和キャンパスで開催する。今回で9回目となる難民映画祭では、シリア、トルコ、アフガニスタン、ブータン、ルワンダ、リビア、南スーダンなど世界各国を舞台とした13作品の上映を予定。ドキュメンタリーやドラマを通じて描かれる世界の難民問題。その作品のほとんどが日本初上映だ。(キ27日付)

◇ 日本カトリック正義と平和全国集会 いのち大切に する社会を 韓国のカン司教が基調講演 (カ28日付)

◇ 釧路地区宣教司牧評議会が主催 9教会合同で大会 (カ28日付)

◇「人生の秋を見つめる」シンポジウム 日本カトリック司教協議会諸宗教部門と上智大学カトリックセンターが共同開催 (カ28日付)

◇「スコットホールを愛で包め」—90年前 弾圧された追悼集会 再び

1923年9月1日の関東大震災時に、震災直後に流れた流言飛語により朝鮮人、中国人が虐殺された。その1年後の9月13日、追悼集会がスコットホール(現:新宿区西早稲田2-3-1)で開かれたが、そこに日本の警察隊が流れ込み中止命令が出された。この弾圧された追悼集会を再び開催しようと、「1924年9月13日 90年前、早稲田奉仕園スコットホールで、何があったの?!」と題して、「関東大震災時・朝鮮人、中国人虐殺・追悼弾圧90周年記念集会」が、同じ日(9月13日)、同じ場所(スコットホール)で開催された。(ク28日付)

◇ 帰国者が日本で働くとは JCFN One Day Conference GRC15 キックオフ

海外邦人伝道や帰国者クリスチャンのネットワーク、「ジャパニーズ・クリスチャン・フェロシップ・ネットワーク(JCFN)」が主催する帰国者クリスチャンを励ますための集会「One Day Conference」が9月13日、お茶の水クリスチャン・センターで開かれた。テーマは「働くということ」。講師はそれぞれ、クリスチャンとしての仕事やお金についての著作を持ち、JCFN理事でもある、高橋秀典氏(立川福音自由教会牧師)、山崎龍一氏(OCC総主事・理事)。今回は来年9月に開催される帰国者クリスチャンの全国規模の集会GRC15(Global Returnees Conference、通称グリコ)へのキックオフイベントと位置付けられた。(ク28日付)

◇ 北米から世界へ 北米在住の日本人を愛する集会

ふるさとのために祈り合う、クリスチャン都道府県人会(長谷川与志充代表)は、海外在住の日本人についても理解を深め、祈っている。9月6日には「北米在住の日本人を愛する集会」を、お茶の水クリスチャン・センターで開いた。(ク28日付)

◇ ユーオーディアと台湾・音契が夢の共演

国境を超えて親交のあるクリスチャン音楽家たちの夢の共演が実現した。日本のユーオーディア管弦楽団・合唱団と台湾の音契合唱管弦楽団だ。9月3、5日には仙台、東京で「第21回ユーオーディア賛美の夕べ」を実施。仙台公演では仙台在住者らによる合唱団も合流した。7日

には「～音楽と映像と証で綴る～ユーオーディア出合いのコンサート」を東京で開催。台湾からは70人以上が来日。ユーオーディア側と合わせて総勢180人が一週間ともに過ごした。(ク28日付)

◇ 森祐理さん 10月ゴールデンタイムにラジオ新番組スタート

福音歌手の森祐理さんのラジオ番組「心をつなぐラジオ番組 モリユリの『こころのメロディ』」が、ラジオ関西で10月第1週目3日午後9時から始まる。国内外で被災地支援、コンサートを続ける森さんが、様々な土地で出会った人々とのエピソードを語る中で、聖書の言葉を交えながら、リスナーに心温まる歌と希望のメッセージを届ける30分番組だ。

受信範囲は近畿一円のほか、岡山、徳島、香川、愛知など。オフィシャルウェブサイトで、1週遅れでコマーシャルを含めた全番組を聴くことができる。(ク28日付)

◇ 村岡花子と賀川ハルの愛の仕事 賀川記念館で「花子とハル展」

NHKの人気ドラマ「花子とアン」のモデル村岡花子と賀川豊彦の妻、賀川ハル(春子)は親戚だ。花子の夫の徹三とハルはいとこにあたる。同じ信仰を持ち、明治、大正、昭和を懸命に生き抜いた2人の女性の人生をたどる「花子とハル展」が、神戸市中央区の賀川記念館で10月31日(金)まで開かれている。(ク28日付)

(カ:カトリック新聞、キ:キリスト新聞、ク:クリスチャン新聞、 聖:聖公会新聞)

【文責:柴田 初男】



7月

「百万人の福音」

◇ 特集: 溪流へー小さな旅

1. 開眼! バードウォッチング 神奈川県・箱根宮ノ下 早川溪谷、2. 奥多摩ライフを楽しむ、3. 森の讃歌、4. 聖書と自然「創造主の語り掛けに呼応する生き方を」

◇ 旬人彩人: 「神の宮として身体も心も健康に」 ボディゴスペルトレーナー R I E、◇ あしあと: 「苦しみの中で見えてきた神様の一面」 『涙とともに見上げるとき』 訳者 正井進

「信徒の友」

◇ 特集: 農がつなぐ人と人

1. 聖書と農—耕すことが人を育てる、2. 土とともに、農に生きる、3. 援農で広がる人の輪—釜ヶ崎・いこい食堂、◇ 『氷点』 誕生50周年! 記念事業でいざなう三浦綾子の世界

「福音と世界」

◇ 特集: 悪を神学する—それ抜きに語れるのか

1. 悪の実体が見えて来るまでには、随分長い戦いが必要であった、2. ヨハネ福音書における「悪」と現代、3. 根源悪からのエクソダス、4. 悪法

「舟の右側」

◇ 特集: 「薬物依存」からの回復

1. ティーンチャレンジ・ジャパンの取り組み、2. 教会が直面している人格障害の諸問題
◇ シリーズ 社会の今を知る: 児童養護施設の“本当のところ”

「HAZAH」

◇ 特集: リバイバルの足音2

1. 愛とロマンの地へ アルゼンチンリバイバル、2. リバイバルへの飢え乾きの始まり(後)、3. ホームカミング・家族の旅路、4. 北海道・希望のフェスティバル、5. 新しい時代のための油注ぎ、6. 信仰の三つの領域

「福音宣教」

◇ 特集: 希望への物語7・文化を超えて被災地で生きる

1. 明日のためのケア—被災地での外国人司牧、2. 外国人被災者が示した希望と課題—ハルノコー師に聞く、3. 暗闇の中の生活、4. 明日へのほほえみ

「福音と社会」

◇ 特集: 安部内閣が急ぐ“普通の国”化の落とし穴 1. 秘密保護法と人権、2. 靖国神社問題と安部靖国参拝違憲訴訟再考、3. 中間総括・安部流「日本を取り戻す」の正体

「羊群」

◇ 特集: あなたはなぜ、イエス・キリストを信じているのか—クリスチャン14人の証言

「あけぼの」

◇ 特集: いのちの原風景

1. いのちをおもう、2. (対談)いのちの歴史のなかで思索する、3. 再生の原風景—渡良瀬遊水地と足尾—の現場から、4. 人の寄る辺と、自然のモノサシ、5. 高齢化率日本一だった島が私たちの夢の舞台、6. 暮らしの足元—里山で生きる力を学ぶ、7. 自然の恵みに目を向ける

8月

「Ministry」

◇ 特集: 引退—そのとき、牧師と教会は

1. 猿の小惑星 ラスト・ジェネレーション、2. 牧師の引退 私たちが知らない“その後の日々”、3. 牧師と信徒が「そのとき」を迎えるために備えておくべきこと、4. 「牧師退任感謝礼拝」のススメ、5. 特集まとめ 牧師の引き際、そしてその後—

◇ ハタから見たキリスト教、◇ 「いのり☆フェスティバル関西2014」教会女子のガールズトーク

「季刊 教会」

◇ 巻頭論壇: 甦りの主の下に集められる神の民として

◇ QK論文: 特集「現代における死と葬り」

1. 福音に根ざす葬りを求めて、2. 聖書における死生観、3. 聖書における死と再生、

◇ QK随想: 1. 現代における死と葬り、2. 私が見てきた身内の死と葬り、3. 後の世も御手のうちにおかれる神に希望をつなぐ、4. 現代における死と葬り—死の過程の共有の大切さ—

「百万人の福音」

◇ 特集: ふるさとを想う

1. 日本人のこころの歌、唱歌「故郷」をめぐって、2. ブラジルから遠く望む、ふるさと日本、3. 今を生きるふるさとの再生を願いながら、4. 真のふるさとは天にあり、

- ◇ 旬人彩人：「地域につながり、輝くために」
ストレイカー・ジョナサン&慶子さん、
◇ あしあと：「90年の人生を振り返って、ただ
神への感謝のみ」 桧垣幸子

「信徒の友」

◇ 特集:韓国を通して考える平和

1. 韓国から一平和を選び取る勇気を、2. 無
関心を越え、真の愛に立つ、3. 在日に根ざし、
在日に生き、在日を超えて、4. 朝鮮人の祖父
の隣人になった日本人、5. 現代日本の差別と
宗教 「ヘイト」と向き合う、◇ 追悼：佐古純
一郎先生を偲んで、◇ 豊島農民福音学校土曜
クラス訪問「時代を先取りしたエコな取り組
み」、◇ 三浦綾子伝道講座レポート

「福音と世界」

◇ 特集:寄留民として——教会を神学する

1. 地の果てから呼び起こされる神の寄留者
として、2. アーミッシュの300年、3. 教会の
ない者の教会、4. マイノリティとしての「生
きにくさ」の中で、5. 韓国における「小さい
教会」運動①

「舟の右側」

1. 中央聖書神学校開校記念講演：「ペンテ
コステ神学の真髄」、2. 第17回日本ペンテコ
ステ協議会研修会：「育てる」をテーマに学びあ
う、3. 美容師の仕事で神に仕え、人に仕える

「HAZAH」

◇ 特集:リバイバルの足音3

1. ホームカミング日本の流れ、2. 奥山実×
周神助対談 教会成長のカギ、3. 愛とロマン
の地へ2 アルゼンチンリバイバル

「福音宣教 8・9」

◇ 特集:希望への物語8・震災で心を突き動かさ れて

1. アンパンマンという名の旅人たち、2. 人
の心の奥を見つめる—小松師に聞く、3. カリ
タス釜石での活動、4. 学生による復興支援の
ボランティア

「羊群」

◇ 特集:「ゆるす」ということ

「礼拝と音楽」

◇ 特集:主の晩餐

1. カトリック教会における「主の晩餐」—現
在の「感謝の典礼」のすがた、2. 日本聖公会
における聖餐式の実践、3. ルーテル教会の聖
餐の実際、5. 座談会：主の晩餐のリタジー—
それぞれの実践から、6. 聖餐式文と「礼拝の

- 歌」、7. カトリック典礼用のオルガン作品に
見られる聖餐用奏楽の伝統、8. ユーカリス
トの歌—その豊かさを味わう

「あけぼの」

◇ 特集:平和な世界、そして未来へ

1. 戦世に平和を培う、2. (対談)福島「原発」
はいまや世界の安全保障問題、3. <主の平和>、
4. 世界中の子どもたちを守るために「戦争
しない」憲法九条を世界へ

9月

「百万人の福音」

◇ 特集:村岡花子と『赤毛のアン』

- 村岡美枝さんに聞く／若き日の村岡花子とキ
リスト教信仰／歩いて見た「花子」／アンの世界
に魅せられて、◇ あしあと：失われた命に導
かれ永遠の生命に出会う 映画監督 班忠義

「信徒の友」

◇ 特集:ひきこもり 生きづらさに寄り添って

1. ひきこもりとは何か、2. 教会を、苦しむ
人と家族に寄り添う場に、3 変わるべきは誰な
のか、4. ひきこもりの癒しに取り組む信仰、
◇ 第4回部落開放全国活動者会議 in 会津
1. フクシマから考える差別、「原発」という
差別—フクシマの声に聴く

「福音と世界」

◇ 特集:聖霊を神学する—忘れられた神？

1. 聖霊、それは全教会の答え、2. 聖霊の神
殿としての身体、3. あまねく臨在し、永遠の
生命を与える方・聖霊、4. 越境する聖霊

「舟の右側」

◇ 特集:現代の人身売買を知る

1. 「現代の人身売買」を止めるには？、2.
「ネファリアス—売られる少女たちの叫び」、

◇ シリーズ:社会の今を知る

1. なぜ私はストーカーに向き合うことができ
たのか？、2. 常に回復し続ける者になる

「HAZAH」

◇ 特集:七つの山 I クリスチャンと政治

1. 政策より政治に対する姿勢、2. キリスト
の心で仕える、3. 政治問題に取り組む資格、
◇ ホームカミング—ジャパン・ギャザリング
in 沖縄

「羊群」

◇ 特集:断食のススメ

- ◇ 特別寄稿「断食祈禱の恵み」カナ共同体・
祈りの家マナ

各教団・教派、宣教団体の 機関紙・ニュースから

7月

「教団新報 NO. 4801 7/5」 (日本基督教団)

1. 2014年度教区総会報告 3、①沖縄教区：信徒戒規「除名」で紛糾、②東北教区：震災支援活動の継続を可決、③関東教区：聖餐の研究・議論の場、設置を否決、④東中国教区：議長報告に会期の大部分を費やす、⑤東京教区：負担金賦課基準見直しを可決、⑥二日東京教区：「集团的自衛権」緊急議案として審議、
2. 教区活動連帯金検討委員会：教区の意見を受止め規則案を再検討、3. 予算決算委員会：三局一時移転について報告を受ける

「教団新報 NO. 4802 7/26」 (日本基督教団)

1. 2014年度教区総会報告 4、①神奈川教区：議員資格を巡り冒頭にて議論、②総幹事報告：17教区総会を終えて、2. 2014年度新任教師オリエンテーション、3. 全国社会委員長会議：震災取り組みを共有、4. 部落開放全国活動者会議：福島・会津にて開催される、5. 免職処分無効確認等請求事件(北村裁判)終結する、6. 宇都宮教会献堂式

「世の光 NO. 766」 (日本同盟基督教団)

1. 2014年特別会議の報告、2. 追悼：石川弘司先生の召天に際して、3. 教会支援部 戸坂聖書教会：教師派遣制度の恵み、4. 教団ニュース、◇ 国内宣教 NO. 172、「キャラバン伝道に行こう」◇ 国外宣教 NO. 449、「国外宣教50周年記念 2014年世界宣教大会」

「JHC Revival 789号」 (日本ホーリネス教団)

- 次世代育成ー育つ喜び、育てる喜びー神奈川教区編①、2. 宣教局ニュース「ユース・ジャム第2回実行委員会報告」、3. 教育局だより「在職5-10-20年研修会報告」、4. 「聖書にみる教会と国家の関係」福音による和解委員会、5. 夏はキャンプへ、GO!、6. 「みんなで東京聖書学院を盛り上げよう」

「インマヌエル教報 NO. 816」 (インマヌエル総合伝道団)

1. 日本福音連盟(JEF)理事会・総会、2. 厚生委員会から「引退後の生活を支える制度を整える」、3. 教団運営委員会から「信徒の活躍する教団を目ざして」、4. 創立70周年記念全国青年大会「青年企画委員のプロフィール紹介」、5. 日本福音同盟(JEA)第29次総会報告、6. 聖宣神学院報

「JCCJtimes NO. 740」 (日本イエス・キリスト教団 時報)

1. 女性教師リトリート、2. 中堅牧師リトリート、3. 教区だより ①関東・東北教区：「シオンの丘合同ワークキャンプ・合同礼拝の報告」、②関東教区：全教会の集い、③京都教区：湖西教会伝道協力、④兵庫教区：CS教師研修会、⑤中国教区：CS教師研修会、

8月

「教団新報 NO. 4803-04 8/9」 (日本基督教団)

1. 第38総会期 第6回常議員会：①会館問題、伝道資金案に時間をかけ議論、②会館、教団提案内容を決定、③伝道資金案二分割、教団総会に提案、④教団と神学校の関係を議論、④決算書形式を整備、⑤国際会議報告、EMS来訪、
2. 教区伝道委員長会議：推進室、青年伝道を主題に、3. 教育委員会：クリスマス献金送付先を決定、4. 救援対策本部会議：再建支援申請、ほぼ出そろふ、5. 統一原理問題全国会議連絡会、6. 2014年 平和メッセージ

「世の光 NO. 767」 (日本同盟基督教団)

1. 教会紹介：神戸恵みチャペル、銚子キリスト教会、2. 教会支援部：中津聖書教会、3. 総務部：2014世界宣教大会に祈りのネットワーク!、4. カルト問題対策委員会：大学で暗躍するカルト教団「摂理」、5. 教団ニュース、◇国外宣教 NO. 450

「インマヌエル教報 NO. 817」 (インマヌエル総合伝道団)

1. 夏期聖会の季節を迎えて、2. 福音讃美歌協会 第9回総会を開催、3. 教区合同研修会：「説教」と「牧会」を学ぶ、4. 追憶：高島俊夫先生ご召天、5. 国内教会局から、6. 女性牧師部から、7. 原発問題を考える、8. 広げた翼：世界宣教局、9. 聖宣神学院報、10. 公報：本部通達、11. 消息報告

「JHC Revival 787号」

(日本ホーリネス教団)

1. 次世代育成—育つ喜び、育てる喜び—神奈川教区編②、2. 平和特集：福音による和解委員会 ①教会史における平和主義の変遷と悲劇、②「慰安婦」記事への抗議と対応、3. 第29回日本福音同盟(JEA)総会報告、4. 日本福音連盟(JEF)横浜大会報告、5. 宣教局ニュース、6. 財務局だより、7. 東京聖書学院PR：『東京聖書学院 信徒コースのご案内』、8. 教団本部ニュース

「JCCJtimes NO.741」

(日本イエス・キリスト教団 時報)

1. 教職者宣教コース、2. 第18回教団牧師夫人研修会、3. 教区だより ①信越教区：婦人大会、②大阪教区：伝道講座、③中国教区：婦人大会、4. 三木栄光教会の新会堂建築報告、5. 公報・消息

9月

「教団新報 NO.4805 9/13」

(日本基督教団)

1. 東日本大震災とアジア学院、2. 宣教研究所委員会：今期「改訂宣教基礎理論」に集中、3. 信仰職制委員会：次期申し送り4項目を確認、4. 第5回夏期研修会：「役員会形成」について学ぶ

「世の光 NO.768」

(日本同盟基督教団)

1. 教職教育部：教師研究補助制度について、2. 献堂の恵み：北新潟キリスト教会、浜松中沢教会、3. 教会紹介：上総キリスト教会、4. 信望愛：「出エジプト会」の働き、5. 宣教区：千葉宣教区、6. 恵流：主を信頼する喜び、◇ 国内宣教 NO.173、1. これからの宣教区レベル教会開拓、2. 十勝めぐみ教会開拓物語、3. 「あれから3年後の今」、◇ 国外宣教 NO451、2014世界宣教大会 報告

「インマヌエル教報 NO.818」

(インマヌエル総合伝道団)

1. 厚生委員会から：謝恩日聖日を迎えるにあたり、2. 夏期聖会の恵み：東関東聖会、北海道聖会、ユース・ステーション、3. 国内教会局から、4. 創立70周年記念事業 青年大会/全国大会準備進捗状況、5. 教団運営委員会か

ら、6. 広げた翼：世界宣教局、7. 聖宣神学院報、8. 公報：本部通達

「JHC Revival 791号」

(日本ホーリネス教団)

1. 次世代育成—育つ喜び、育てる喜び—静岡教区編、2. 信仰のバトンタッチ、3. 第7回日韓聖潔教会共同歴史研究会報告、4. 宣教局ニュース(国内宣教、国外宣教)、5. 教育局ニュース、6. 「集団的自衛権の行使を容認する閣議決定に対する抗議」(論旨説明)7. 教団本部ニュース

「JCCJtimes NO.741」

(日本イエス・キリスト教団 時報)

1. バイブルキャンプ報告、2. 全国青年宣教会、3. 御影福音教会会堂建築報告、4. 神学生修養会

「Japan Harvest Volume65 No.3」

(Japan Evangelical Missionary Association)

- ◇ 特集論文：1. Kankei, Wa and Evangelism (人間関係、和と伝道)、2. Understanding Shinto—Cleanliness and Other Values (神道を理解する—清さとその他の価値)、3. The little Engine that Could (山を越える小さな機関車)、4. Celebrating Japanese Culture How Should Christians Relate to Japanese Culture? (日本の文化を評価する—クリスチャンは日本の文化とどうかかわるべきか)、5. Hospitality, Japanese Style (日本人のやりかた、おもてなし)、6. Will There Be Keigo In Heaven? (天国に敬語はありますか?)、7. Famous Japanese Buddhists—Bridges to Spiritual Topics (著名な日本人僧侶の何人か—霊的話題への橋渡し)、8. Language and Culture for Mission in Japan (日本での宣教のためのことばと文化)、9. OMF Japanese Language Center (OMF日本語センター)、10. Evangelism Using Kanji (漢字を使って伝道する)、
- ◇ 一般論文：1. How God Counts (神様の見方)、2. Called, Not Driven (追い立てられてではなく、召されて)

【和訳：花菌 征夫】



神学校のニュースから

7月

「東京基督教大学大学報 146号」

◇ 特集：キャリア特集「地の塩、世の光」就職をめざして

・2013年度学部卒業生、大学院修了性の進路状況、

1. 神学科・大学院：神学科1年次8名、編入学2年次1名、3年次11名、大学院修士課程16名、博士課程4名入学、2. 教会音楽専攻科1名入学、3. 国際キリスト教学専攻10名入学、4. キリスト教福祉学専攻5名入学、夏の介護実習、5. 2013年度決算概要、2014年度予算概要、6. ニュース：秋学期海外プログラム、海外留学生の受け入れ、紀要「キリストと世界」大学ウェブサイト公開、夏期伝道派遣教会、高座・希望ヶ丘・岡山エクステンション、7. 卒業生からの手紙、8. 支援会ニュース

「東京聖書学院 学院だより」

1. 新入生 献身の証し、本科5名、1年訓練生3名、2年編入生1名合計9名入学、2. 信徒コース通信教育のご案内、3. 後援会のご案内

8月

9月

「聖書宣教会通信 158号」

1. 聖書神学舎から、2. 2014年度夏期伝道実習、3. 「オープンデイ」のお知らせ、4. 「賛美礼拝」のお知らせ

各学術雑誌の記事から

「宣教学ジャーナル 第8号」

(日本宣教会・2014.7)

◇ 論文：1. 「ポストモダンの新しい福音宣教」、2. 「共に歩んで、共に生きて—3.11東日本大震災における外国人支援と宣教司牧」、3. 「宣教の民としての教会論—福音派の宣教

の神学における宣教的教会論の意義を巡って」、4. 「キリスト教的アイデンティティの形成におけるリタジーの役割—礼拝の宣教学的意義に関する考察」、5. 「日本におけるポストモダン時代の幼児教育・家庭教育—神の教会保育園における事例研究を通して」

「福音と社会 紀要 第29号」

(農村伝道神学校・2014.6)

◇ 現場から「伝道」を考える

[論文] 1. 「宣教の現場である3つの教会での働きを通して—課題・「未受洗者配餐」・展望—」、2. 理想の礼拝とは何か—J・Sバツハの謎の発言「整った教会音楽」をめぐる、3. 開放的・包含的聖餐論

「基督教研究 第76巻 第1号」

(同志社大学神学部基督教研究会・2014.6)

◇ 講演：預言者ムハンマドを「継いだ」学者たち

◇ 論文：1. 「不正な管理人」のたとえについての一考察、2. ルーフアス・M・ジョーンズの宗教思想、3. タイの女性神学者ガモン・アラヤプラティープの神学思想、4. イエス・キリストにおける「神一人」性についてのシュライアマハーの理解、5. 植民地朝鮮における日本基督教会

「キリスト教文化研究所紀要 第32号」

(東北学院大学キリスト教文化研究所・2014.6)

◇ 論文：1. アガペーとしてのフィリア：ヨハネ福音書における友愛の主題、2. 初期キリスト教における男性と女性の理解、

◇ 研究フォーラム：闇から光へ—体験的キリスト教美術論—

「キリスト教文化研究所年報 第22巻」

(清泉女子キリスト教文化研究所・2014.6)

◇ 論文：1. 脱原発とキリスト教、2. インターネットで福音を伝えるということ、3. キリスト者としての生き方について—教皇フランシスコ 回勅『信仰の光』を手がかりにして、4. 20世紀前半イギリスにおける教会・心理学者・精神科医の相克—スピリチュアル・ヒーリング問題をめぐって—、5. ディルク・バウツの涙を流す<荊冠のキリスト>、6. 1877年刊『使徒行伝の話』の語彙とりわけ字音語の分析

ー明治初期の口語体ひらがな専用キリスト教入門書にみる訳語の特徴ー

「キリスト教文化研究所年報 第36巻」

(ノートルダム清心女子大学

キリスト教文化研究所・2014. 7)

◇ 論文：1. 戦前におけるカトリック系セツルメントの展開、2. ワールドユースデーにおける若者の宣教と展開、3. 「内観・称名・呼吸」から「ネープシス・イエスの御名の祈り・聖霊」

◇ 講演：1. 聖書の知恵の現代的意味、2. 聖書に見るいのちの恵みとその共有

◇ 論文：1. 坪田譲治の早稲田大学時代ー早稲田大学、友愛学舎、統一基督教会（ユニテリアン）を中心にー

「カトリック研究 第83号」

(上智大学神学会・2014. 8)

◇ 論文：1. ゲッセマネの祈りの独自性と意義をめぐって、2. キリスト教信仰と今日の現象学思惟、3. エディット・シュタインにおける「十字架」の秘義、4. カロル・ヴォイティワの人格主義的人間学

「新約学研究 第42号」

(日本新約学会・2014. 7)

◇ 論文：1. 蒔かれた種のたとえー神の支配の光と影、2. 「小ヤコブとヨセフの母マリア」とは誰か、3. ディアスポラ書簡としてのローマ書

「ウェスレー・メソジスト研究 14号」

(日本ウェスレー・メソジスト学会・2014. 3)

◇ 論文：1. 第一次世界大戦と日本のキリスト教会ー内村鑑三の戦争観と大正期ホーリネス・リバイバル、2. 戦時下の合同問題ーホーリネスの視点から、3. 第二次大戦下の賀川豊彦、4. 本田庸一の救済論的な一貫性ー十九世紀メソジスト神学の変容の文脈において、5. スザンナの教育論そのものにおける「理性」

「内村鑑三研究 第47号」

(日本新約学会・2014. 4)

◇ 論文：1. 内村鑑三の贖罪的終末論の諸相(下)、2. 咸錫憲と無教会をめぐる宗教思想的な探求、3. 内村鑑三と超党派の思考

◇ 研究ノート：1. 内村鑑三の「再発見」ー「にもかかわらず」と「だからこそ」ー、2.

内村鑑三における信仰と「ナショナリズム」ー天皇制などをめぐってー

「キリスト教教育論集 第22号」

(日本キリスト教教育学会・2014. 3)

◇ 特集課題論文：1. 帰一協会における宗教間対話と教育ー宗教情操教育再考、◇ 研究ノート：1. キリスト教リベラルアーツ・カレッジのメタナレッジとベストプラクティスー知識経営のフレームワークに基づく分析ー、◇ 会員研究紹介：キリスト教信仰と人間形成をめぐって、◇ 第25回 学会大会フォーラム報告：英知をもって生きよ！ー熊本バンドが遺したもののー、◇ 第25回 学会大会シンポジウム報告：人格形成の再考ーキリスト教教育の教育力

「日本の神学 第53号」

(日本基督教学会・2014. 9)

◇ 論文：1. 前近代・北東アジアのキリスト教思想、2. 「契約の書」における捕囚期以後ユダヤ社会の構造、3. 神学的普遍性をめぐる討議、4. カントの宗教哲学における「善の原理の人格化された理念」とキリスト

◇ シンポジウム：「東アジアの平和形成に対するキリスト教の貢献」

「聖書と神学 NO. 26」

(日本聖書神学校キリスト教研究所 2014. 7)

◇ 特集：「ポストコロニアル神学と3. 11以降の神学」

[特集論文] 1. 金井為一郎とその時代、2. 脱西洋主義と神義論、3. 在日インドネシア人教会大洗ベツレヘム教会の高台移転計画についてーポストコロニアルな神学的取り組みとして、4. 福島以降とポスト・コロニアル神学ー「社会的福音運動」を巡って、

[研究論文] 1. やもめかディアコニッセカーヨアンネス・クリュソストモスのコンスタンティノポリスでの経験から、2. 戦時期「国体」思想と「日本的キリスト教」(中編)。



あしがき

猛暑だった夏が終わったかと思つたのもつかの間、残暑を感じる間もなく秋の気配が深まり、早くも10月を迎える時期となりました。ここに「日本宣教ニュース」の第2号を何とかお届けすることができ、感謝致します。

7月から9月の期間は、各新聞の記事等を見ても、各教団・教派におけるキャンプや聖会、宣教大会等の活動、あるいは8・15集会や広島・長崎を覚えての平和集会等が例年のように行われています。そういう意味では、集団自衛権行使容認に対する反対運動等を除いて、キリスト教界全体としても、特別目立った動きもなく、余り大きな変化も感じ取ることはできないように思われます。

しかし、この夏は全国各地において、異常とも思えるような記録的な大雨が降り、8月20日の未明には、広島市で豪雨による大規模な土石流が民家を襲い、大勢の命が失われました。このような異常気象は一時的なものではなく、統計データによれば、短時間に大雨が降る現象が明らかに増加傾向を示しており、その原因としては「地球温暖化」が大きく関係しているということが、既に自明のこととされています。

しかし、私たちはその原因とされている経済至上主義を改め、自らのライフスタイルを見直そうとは容易にしません。そういう意味では、被害に遭われた方たちは、地球温暖化による犠牲者であるとともに、私たち自身が加害者でもあると言っても過言ではないかと思ひます。

翻つて、キリスト教会の現状はどうでしょうか。統計データから言えば、全国のキリスト教会の教勢は今や頭打ちから減少傾向に入っています。加えて、今後牧師の高齢化や少子高齢化による後継者不足等によって無牧教会が増加することも予想されています。

今、早急に手を打たなければ、キリスト教会は「1%の壁」を破るどころか、ますます衰退の一途を辿りかねない危機的な状況にあると言えます。

しかし残念ながら、多くの方が問題点を指摘し、解決策を提示しても、なかなか具体的な動きにはつながらないのが現状です。またその一方で、自分たちの教派や教会が祝福されていればよし、とする風潮も無きにしも非ずのようにも思ひます。まさしく、キリスト教会においても「教会温暖化現象」が現れている、と言つては言い過ぎでしょうか。（初穂）



東京基督教大学 国際宣教センター 日本宣教リサーチ 【Japan Missions Research】

〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目 301-5
学校法人 東京キリスト教学園 東京基督教大学 国際宣教センター内
TEL: 0476-31-5522 FAX: 0476-31-5521 E-mail: jmr@tci.ac.jp
<http://www.tci.ac.jp/institution/fcc/jmr>

日本宣教リサーチ代表 山口 陽一(東京基督教大学大学院神学研究科委員長)
日本宣教リサーチ専門委員 柴田 初男、花蘭 征夫